

君もオレも“KANANO”かも？

谷口吉光（秋田県立大学）

金足農業高校の甲子園大活躍のおかげで、私たちは忘れられない夏を過ごすことができました。私が勤める秋田県立大学は金農と同じJA 追分駅が最寄り駅で、金農の制服を着た生徒たちともよく出会います。そんな本当の地元だったので、私も家族も知り合いも金農が勝ち進むにつれてものすごい興奮状態になり、決勝で惜しくも大阪桐蔭に敗れた後には、しばらく虚脱状態に陥りました（「金農ロス」というそうですね）。

しかし、こうした地元ゆえの盛り上がりだけでなく、金農の活躍は全国の幅広い人たちに何ともいえない感動を呼び起こしたようです。このことについてはすでにたくさんの意見が出されていますので、一般の方があまり知らない農業界での反応をご紹介します。

農家が読む新聞に「日本農業新聞」がありますが、8月22日には「金農よくやった農で培った底力発揮」という踊るような見出しで、甲子園準優勝の快挙を一面トップで取り上げていました。ふだんは「転作交付金が拡充される」とか「米の作柄は平年並み」など農業関係の記事ばかりなので、この扱いは驚きました。

同じ日の社説には次のような思いのこもった言葉が並びました。「(金農の活躍は) 農業界にも近年にない明るい話題をもたらした。“曇天”に覆われた農業の『輝く星』となって、農業に携わる全ての人に希望の明かりをともした。…何事も諦めてはいけない。そんな素朴な勇気を金農ナインからもらった。…選手が反り返りながら声を限りに歌った校歌は全ての農業者の“応援歌”だ。ありがとう『KANANO』」

私はこの社説に感動しました。「農業新聞だから立場上金農の活躍を称える」というお仕事の文章ではまったくなく、金農の活躍によって、これを書いた方が心から農業に対する誇りを呼び覚まされたのだと思いました。

どうしてこんなことが起こったのでしょうか。東北の、雪深い、県内中学出身者だけの、3年生が9人しかいない、県立の、農業高校の野球部が並みいる強豪私立高校を次々に打ち破って準優勝するとは…。

「世の中捨てたもんじゃない」「諦めずにがんばれば奇跡は起きる」。ふだん押さえつけられ、諦めなければならないことが多いからこそ、「やればやれるんだ」という希望の風が多くの人の心を吹き抜けたのではないのでしょうか。

そして、あれから秋田県民も、心なしか自分たちに自信を持ち、前向きになったような気がします。「君たちもオレたちも金農みたいになれるかも」。そんな合い言葉で励まし合えるようになれば最高ですね。

（北羽新報「トランジションの風」 2018年9月9日掲載分に加筆・修正した）